

西宮えびす

平成18年
新春号

招福



えびすの宮総本社
西宮神社
社一本日西宮神社

十日えびす

住吉神社境内整備事業報告

諸国探訪 須坂西宮神社

えびす
NISHINOMIYA EBISU
平成18年 新春号

西宮えびす 平成18年新春号(通巻第24号) 平成17年12月1日 発行
発行/西宮神社 〒662-0914 兵庫県西宮市社家町1-17 電話0798-630321 FAX0798-630565

編集/事業課広報 印刷/小西印刷所



えびすトピック

●長野県 配札者懇親会

去る平成十七年十月二十二日(土)、長野県で本社の御神札



御神影を配布されている方々二十七名がご参会され、長野県配札者懇親会が松本市に於いて行われました。ほぼ長野県の全域から十団体、二十七名がご参会され、本日より宮司、講務課二名が出向致しました。午前十一時より松本市・深志神社に正式参拝、正午より松本市・東急インに場所を移し宮司挨拶・講話、そして参会者代表の松本市・西宮講社松本事務所代表の宮澤左千夫氏よりご挨拶を頂き、須坂市・須坂西宮神社奉賛会会長の中野幸一良氏の乾杯発声により懇親会が閉会致しました。閉会後にご参会の皆様の自己紹介、配札方法や意見交換等が積極的になされました。また本社の紹介VTRの鑑賞、また持参した本社史話をご覧になられ、ますます本社えびす様への信仰を深められた様子でした。会の終わりには西宮名物の灘の樽酒や煎餅等が当たる福引きが行われました。参会者の方々は他の配札人の方と絆を深められて、様々な意見の交換をなされておられ

有意義な懇親会となりました。これからこの様な会を定期的に各地で開催いたしまして皆様との絆を深めると共に意見の交換等させて頂きたく存じます。

●御旅所で童女神楽を奉奏

前号でも予告いたしました。今年度より西宮まつり御旅所祭にて童女神楽が奉奏され、担当の浜脇地区から選ばれた九才から十二才までの小学生八名が奉仕しました。



先立つ夏休みの四日間、神職指導のもと練習を重ね、本番の九月二十三日を迎えました。朝から好天に恵まれ、八名の童女さんは陸渡御の行列に奉仕。新西宮ヨットハーバーに移動ののちは、同所に設けられた御旅所にて神楽「豊栄の舞」を奉奏しました。当日は夕方の還御祭まで、ほぼ丸二日の奉仕でありましたが、疲れた顔もせず終始笑顔で奉仕いただいたのが印象的でした。

平成十八年以降も氏子四地区から年交代で童女奉仕をいただく予定ですが、次の浜脇地区担当は四年後、今回奉仕して下さった八名の童女さんも四年後には中学・高校生になります。彼女たちとしては生に一度の経験といえるでしょう。奉仕直後、社務所にて森藤陽香さん(九才)からは「神楽の動

●石灯笼奉納

去る平成十七年八月五日神戸市垂水区に



お住まいの福井栄子さんより石灯笼が奉納されました。両親がお世話になったと語る福井さん。この度の石灯笼奉納もご両親からのご神縁による発願であるそうです。前日の四日、末社宇迦之御魂神社の隣に工事が行われ翌五日に福井さんのご参列のもと、石灯笼の清祓が斎行されました。石灯笼には福井さんのご両親である矢尾榮二「矢尾美代子」両御芳名が刻まれています。

●前宮司帰幽のお知らせ

去る九月二十五日午後四時四十二分、前宮司吉井良隆が肺炎のため逝去致しました(享年八十三歳)。前宮司は昭和二十四年に当社補宜、昭和四十五年に権宮司、昭和五十三年に宮司を務め、平成十六年に退任するまで、実に五十五年の永きにわたる神明奉仕でした。生前のご厚情に感謝し、ここに謹んで報告申し上げます。

編集室から

いよいよ平成十八年も当社が最も賑わう十日えびすを迎えようとしています。受験生の方々にとってはまだまだ予断を許さない日々が続いているのではないのでしょうか。時代は少子化の波にあり、学生の数が減ったとはいえ、受験生にとっては気が抜けないのが実情のようです。

受験勉強の忙しい時期であろうと拝察いたしますが、そんな時こそ、気分転換に当社へ参拝されるのも結構なのではないでしょうか。新春の寒気の中できれいな空気を吸えば、勉強もはかどるうかと存じます。本号では新授与品の紹介を致しましたが、その中には合格御守もあります。桜の花が込められ、春(合格)を想わせる御守です。受験生の皆さんも初詣・十日えびすのよき日にご参拝下さい。そして合格という名の「福」をつかみ取れますよう、御祈念申し上げます。



須坂西宮神社

須坂西宮神社奉賛会 会長 中野 幸一良 氏

皆様、初めまして。私達は信州の、須坂西宮神社奉賛会と申します。信州・長野県は面積が広く、気候風土が異なるために、四ツのエリアに大別されます。信州の信をつけて、北は北信、南は南信、東は東信、中央部は中信といえます。須坂西宮神社のある須坂市は、北信濃、つまり北信地方となります。善光寺平という平坦な土地があるとはいえ、多くは山々にかこまれた地域です。そこに住む人の性格は慎重で、忍耐つよい一面、進取の気性にも富んでいます。



江戸時代には、堀家二万石の城下町でしたが、江戸末期より明治、大正にかけ生糸産業の町として大いに栄えました。しかし、商業経営者の団結組織がなく、他の町村に遅れをとることから、商業者の守護神の建立を計画しました。大世話人、組世話人合計二十三名をもつて進め、明治二十九年、摂津の国西宮神社に、特派懇請し、御分霊の許可をえて建立されました。場所は、芝宮墨坂神社の二角です。平成八年に百年祭を挙行いたしました。市民から

えびすさまとお正月と申しますと、関西では一月九日から十一日までの「十日えびす」が思い起こされます。当社を始め各地のえびすさまでは、年頭にあって商売繁昌、家内安全を願う人々で境内は埋め尽くされます。特に当社の「開門神事」は、厳しい「忌籠り」という斎戒の時間から吉兆の売り子の声飛び交い、大勢のご参詣者で賑わう時間へと、一瞬にして劇的に転換するダイナミックな神事です。えびすさまの信仰が、土地により商いの神、漁業の神、田作りの神或いは市の神など多様な様態がとられていますように、お正月を迎える際のえびすさまのお祭りも各地でさまざまです。長野県では正月三日と二十日がえびすさまの日です。神棚とは別にえびすさまをお祀りしている「えびす棚」には太くて鯛の形をしたタイシメと言われる見事な注連縄を掛け、傍らには掛け軸を、ご神前へは赤飯、お頭付きの魚や御神酒などを進めます。えびすさまは左利きだからといって左膳でお供えするところもあるようです。次のようなおもしろい話もあります。えび

は「おいべっさん」と愛称され親しまれてきました。現在、奉賛会員は約五十五名、その内、役員は十二名です。活動内容は、月の初エビスからはじまり、季節ごとの月次祭、五月の本社参拝、十一月の例大祭、十二月の大祓いと、元旦にかけての歳旦祭と続きます。けつして派手な活動ではありませんが、御神礼、お姿の頒布は特に大事な役割です。私達はいつも、どうしたらお宮に人々が参拝し、恵比寿大神のご神徳につつまれ、幸せな生活が出来るよう考えています。特に十二月一日から三日迄のエビス講には、会員みずから、笹を六阭本かりとり、お姿を取付け、参拝者に差し上げておりますが、秋の風物詩として喜ばれております。又最近の流行デザインを取り入れた各種お守り、熊



手等を本社と相談してお分けいただき、頒布しております。こうした神事、活動にかかせないお方は勝山宮司でございます。神事のあとは、講話をしていただき、神への理解と精神の高揚をはかっております。最後に、忘れてはならないエピソードを、ひとつご披露いたします。西宮本社の五月の祭事には、必ず五名位で参加しておりますが、かつて、ひとりであっても、かかきず夜行列車で参拝していた方がいらつしやいます。故青木政義さんといつて、商工会議所の専務さんでした。最近になって、本社の方からお聞きし、感銘をうけました。そのように、私達の知らない歴代奉賛会長をはじめ、諸先輩が、つなげてくれたからこそ、今日の奉賛会があります。これからも相変わらず、西宮総本社のご指導を賜りまして、現役を離れ、高齢とはいえ元気な、先輩のご意見を聞きまして、進んでまいりたいと念願しております。平成17年9月 終



えびすさまのお正月

西宮神社 宮司 吉井 良昭

すさまが家の中でお祀りされている場所は、北の間だとか暗い所だそうなんです。だからえびすさまも「南向きの暖かな部屋がいいなあ」とおっしゃるようで、その時には「お金を稼いできて下さい。そうしたら南向きに祀ってあげましょう」と答えるそうです。えびすさまは正月に仕事始めに出入り、十一月二十日の恵比須講の日に帰って来られるのです。また氏神様等をお祀りする神棚には魚の頭を供えませんが、お勝手手の隅のえびす棚には串に差した尾っぽしかお供えしないところもあります。これは、「早く神棚へ祀ってもらいたいのならば一生懸命働いて下さいな」というメッセージだそうなんです。またある地方では、「これだけしかお供えできませんので、もっと福をお授け下さい」というアピールだとのことなんです。このような多様な思いを込めてお祈りをされるえびすさま……今年のお正月もお忙しそうです。年頭にあたりましてご崇敬各位の益々のご隆昌とご健勝をこころよりお祈り申し上げます。

住吉神社境内整備事業報告

西宮ヨットハーバーを眼下に臨む小高い森の中に当社の末社、住吉神社は鎮座しています。航海の守り神様として知られる同社に於いて、平成十七年七月十四日、境内整備の成功をお知らせ申し上げる竣工奉告祭が斎行されました。

四月十二日、関係者参列の下、事業の成功の安全を祈る起工式が執り行われ、翌五月から工事が開始されました。そして二ヶ月後の七月十日、無事に工事が完了いたしました。



事業記念碑

住吉神社本殿に仮遷座されていた弁天社のご神体を新社殿に御遷しする正殿遷座祭を斎行いたしました。当日は夕方から天候が心配されていましたが、本降りになることもなく、無事執り納めることが出来たのも、大神様の恩顧でありましょう。

そして翌七月十四日、関係者百十三名参列のなか、住吉神社境内整備事業竣工奉告祭が斎行されました。

祭典の後は宮司、西宮市長山田知氏、西宮神社総代蓮沼亮三氏、住吉神社世話人代表油野博氏により顕彰碑・奉納絵馬の除幕式が行われ、ご参列の方々から温かい拍手を戴きました。続いて、山田西宮市長からご祝辞を戴き、また、宮司から顕彰碑の解説を行いました。

午後からは場所を西宮神社会館に変えて直会が開かれ、同会では奉納絵馬の作者である吉田伊佐氏より絵馬の解説が、建築士の木村嘉三郎氏からは境内整備の経緯について説明を戴きました。

本事業では、弁天社の再建のほか、手水所・ベンチ・手すりが改設され、事業記念碑・当舎屋金兵衛顕彰碑・住吉神社由緒記が新設されました。また繁茂していた草木が整理され、境内全体が広く明るくなったように見受けられます。



住吉神社由緒記

住吉神社の創建

そもそも住吉神社の創建は、西宮に生を受けた米穀商当舎屋金兵衛(元文五年(西暦一七四〇年)生まれ)の志より起るものでした。金兵衛は阪神間の海上交通が整備されていないのを嘆き、西宮港湾の川から絶えず流出する土砂、あるいは波風から西宮の浜を守り、また、家業の物資運送に水運を利用することを考え、築州建築を計画しました。寛政(西暦一七八九―一八〇〇年)の頃より寄付を募り、享和二年(西暦一八二二年)に着工しましたが、なかなか事業は進まず、難行を極めたようです。そこで文化二年(西暦一八〇五年)工事の成功を願い、海上交通の守護神、住吉大神を勧請して住吉神社が建立されました。以後、工事は順調に進み、文政年(西暦一八一八―一八二九年)頃に完成しました。



復興した弁天社

西宮神社で行われるイベント

当社では祭典だけでなく様々なイベントが催され、いずれも多くの参拝者が訪れ境内を賑わせます。今号では特に恒例となっているイベントをご紹介します。

◆節分直前の日曜日 若戎会餅つき

西宮神社の氏子青年会「若戎会」が中心になって行う恒例行事で、約五〇キロのもち米をつきあげ、およそ六千個の丸もちに仕上げます。もちは参拝者や各地の福祉施設等に配られます。



◆五月随時 皐月展

今年で四十回を迎える歴史ある展示会で、境内駐車場に展示台を組み立て、またサツキの苗の配布も行つておられます。



◆十月から十二月随時 菊花展

昭和五十二年に開催されてから今年で二十九回を数えます。毎年十月下旬より十一月二十三日迄のおよそ一ヶ月にわたり境内が菊花で彩られます。



◆十月随時 フリーマーケット

日本フリーマーケット協会主催により、境内に約二百のブースが出店します。また出店者自身の製作したオリジナル作品を販売するアートブースも約五十出店します。



◆十月第二土曜日・翌日曜日 酒ぐらルネサンス

酒造メーカー十数社の主催により行われる行事で、振る舞い酒やきき酒大会等のイベントが催され、また居酒屋広場や西宮物産販売コーナー等が出店します。境内には美酒を求める参拝者で賑わいます。



◆毎月十六・十七日 骨董市

境内の参道沿いにおよそ十店の骨董商が珍品・希少品を並べ、休日には多くの買い物客で賑わいます。



◎授与所でえびす像の展示を始めました

ご周知のとおり、えびす大神様は七福神の二神として日本全国で信仰されており、そしてその御神徳にあやからうと、各地でさまざまなえびす神像が作られました。当社ではこれらえびす神像等、えびす様に關する資料を蒐集する「えびす信仰資料収集事業」を実施しております。年に数回、神職が日本各地に出向。神社・民芸品店・古美術店等を巡り、えびす様の御神像



様の御神像

なお二月初(平成十八年は二月二十日)には陶器市が開催されます。平成十八年で三回目を迎えます。

十日えびす

商売繁盛を願う多くの参拝者が集う「十日えびす」が迫っています。平成十七年も百万人を越える参拝者をお迎えいたしました。平成十八年も大マクロの奉納・有馬温泉の献湯・開門神事福男選びといった諸祭事が行われます。特に福男選びは、毎年数百人の足自慢が集い、境内の参道約二百メートルを本殿めがけて疾走する神事で全国的にも有名です。



開門神事福男選び

平成十七年の福男



左から三番福 大迫純司郎さん、一番福 石田博康さん、二番福 堀尾泰寛さん

新授与品のご案内

平成十八年は正月より新授与品が目見えます。また、装いを改めた授与品もありますので、ご参拝の際は、新しいお札・お守りをお受け下さい。



良縁御守

十月は神無月といいますが、一説ではこの月に、神様達は出雲に集合し、縁結びの相談をされているといわれています。十月にはこのお守りをお受けになって、神様に恋愛成就を願うのも結構なのではないでしょうか。



絵馬

往古は本物の馬を奉納し、神助を祈っていたそうです。時代が下り、絵画の馬を奉納する形になりました。



商売繁盛家内安全木札

紐付きのビニール袋に収めてありますので、神棚が無いご家庭でもおまつりいただけます。



福銭御守

招福・金運を願うお守りです。商売繁盛・福の神えびす様の御神徳を象徴したお守りといえるでしょう。



金運守



開運招福御守



交通安全肌御守

車に付けるだけでなく、身に持っていただけるようコンパクトになりました。



交通安全御守



交通安全袋御守



身体健康御守

健康促進・病氣平癒のお守りです。木箱に納められていますので、お見舞い・快気祝い等にも結構です。



さくら咲く合格守

学間には本人の努力が大切でありますし、神様も努力に応じて神助を下さるといいます。合格お守りには桜が施されています。



合格学業御守・赤



合格学業御守・青



学業御守



厄除御守

厄年に当たる方、また人生の節目を迎えられる方がよくお受けになります。なお、厄除けのご祈禱を受けられた方にもお授けしています。

平成十八年一月の行事

- 一月一日 午前 零時 初太鼓
- 午前 六時 歳旦祭・若水神事
- 二月 午前 十時 奉射事始祭
- 三日 午前 十時 元始祭
- 五日 午前十一時 百太夫神社祭
- 八日 午前 九時頃 招福大マクロ奉納式
- 九日 「宵えびす」 午後二時 有馬温泉献湯式
- 午後四時 宵宮祭
- 十日 「本えびす」 午前四時 十日えびす大祭
- 午前六時 開門神事福男選び
- 十一日 「残り福」
- 十五日 午前 十時 十日えびす奉賽祭

開門参拝の証

一月十日午前六時の開門神事に参拝された方へ、記念に無料でお授けいたします。(先着2,000名)



神輿殿改装中

福笹を授与いたしております神輿殿が改装される事となりました。現在はまだ工事中であります。新年には新しい神輿殿で参拝者をお迎えする予定です。



招福大マクロ奉納式



有馬温泉献湯式



えびす瓦版

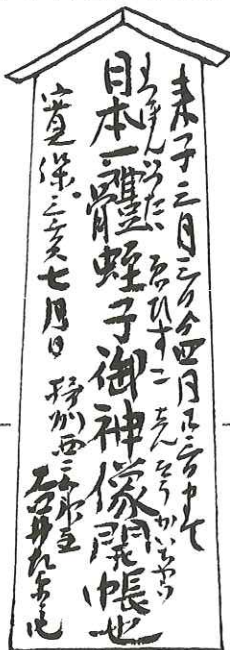
時の西宮神社社用日誌を
ひもとく「えびす瓦版」
今号は延享元年
(西暦一七四四年)に
記された社用日誌です。



神主 吉井左京亮良行
吉井采女 東向左膳
祝部 大森善大夫
田村伊左衛門
廣瀬文右衛門
祝部 大森主膳
大森主水
堀江権大夫
橋本治大夫
神子 紅野治大夫
大石勘大夫
社役人 辻重左衛門

第二回 恵美酒神像の開帳始まる

伝来の神宝とともに



三月三日より四月二十三日までの五十日の間、享保七年以来二十二年ぶりに本社において開帳が行われた。
昨年六月に藩主である尾崎表と大坂御奉行所に開帳願書を差し出し、続いて上京の上当社伝奏家の久我大納言家へも届出を差上げた。翌七月には早速左図の

通り縦三尺余、横一尺八寸程の立て札を作り、尾崎、神崎、伊丹、大坂(日本橋、京橋、難波橋)、安治川、天王寺黒門口、本町橋)堺、兵庫そして播州姫路に向いて竹の杭に縄で固く締めて立てた。
また社中には御開帳中の定めとして
一、朝夕御神事怠慢あるまじき事
一、昼夜火の用心は入念の事、

一、銘々の引受け場所を明けて他出しない事
一、散銭は勿論札料穂料寄進の金銀米銭は尽く神納する事
一、境内境外の水茶屋見世物の類、菓子見世にも無用に立ち入らぬ事、また商人等依怙鼻の沙汰をしない事
これらの事に違背する者は相応の過料を申渡す。この定めをよく守り昼夜丹誠を抽んじて各々は和順に申合せて大切に勤める事とした。

三月に入り準備も整い、開帳前日には尾崎より御奉行御目付衆他が西宮の町濱の四軒の宿に泊まる。
愈々三日。明六つ時(午前六時)に神主三行が御神前へ進み御開帳の祭典が始まった。
乱声 着座 祓神楽 御戸開
音楽 御膳神酒献上 祝詞
奉幣 祓神楽 音楽 撤御膳
各退下

諸方からの参拝続く「まんぼう」も奉納

雨天の日も参詣は多く境内は大いに賑わった。主な参詣、寄進は次の通りである。
尾崎西町 大生鯛、御神酒

明石問屋中 金式歩
大坂雑子場 大行灯二張生鯛
安治川廻船問屋仲 御供米他
鳴尾村綿屋仲間 金壹兩
大坂三井呉服店 青銅五匁文
兵庫津仲買中
江戸太々神楽講 太々神楽祭
当所濱之町 舟だんじり曳く
紀州廻船 木灯籠一對、銭額
御影村石船中 金式百匹、まんぼう魚壹匹但し参詣の節船に取付け、生取にて持参
大坂北濱講中 銭細工額をだんじりに載せはやし立て献上
当所横路町中 銭細工の御太刀一振、神酒御鏡餅、金百匹

一方境内には開帳のため臨時の設営が行われ参拝者の便宜を図った。

御影札、御守札等の売場
御供神酒所
献上物置場
番所
御仮殿にて松原天神の御神像開帳
本地堂にて御宝物開帳
拝殿にて竜明珠
南宮にて剣珠
萬人講御膳すすめ場
当所庄屋年寄中休息所
四月二十三日の御神像御開帳の神事を以つて滞りなく五十日間の開帳を終える。

翌日には尾崎へ御札、そして大坂へ出向き御奉行所へ開帳終了の御届を持参した。

乍恐以上書御届申上候

先達而被為仰付被下候西宮恵美酒神像并傳来之神宝等開帳之義三月三日与四月二十三日迄五十日之間首尾能相仕廻候二付御届奉申上候已上
摂州西宮神主
吉井左京 亮 印
延享元年甲子四月二十四日

御奉行所
六月には御開帳の慰勞として当所御陣屋の藤介殿や御足輕衆中を神主宅に招いて料理、淨瑠璃などで遊宴を催した。

尾張伊勢美濃方面より修理料社納

名古屋支配所の大澤兵部が統括にて、右方面より今年も御修理料が社納された。賦与人と旦那場、社納高は次の通りであった。

柴田五郎大夫 九百五十文
尾州愛知郡 五十村
細川左門 四貫百二十六文
尾州中嶋郡八十三村
尾州桑名郡五十八村
濃州之内 四十四村
堀田右内 二貫三百四十文
尾州知多郡七十村
尾州丹羽郡二十九村
吉田兵馬 二貫六百二十文
尾州丹羽郡二十九村
飯田多富 一貫四百四十一文
尾州中嶋郡八十四村
尾州海東郡十村
同 犬山町 濃州岐阜町

その他を合合わせると十六名により二十六貫百一文が社納された。昨年度は二十二貫六百三十文であったのでやや増加した。

筑前国香椎宮への官幣使(勅使)へ拜礼、帰路に社参

九月二十七日、香椎宮への官幣使が西宮の御本陣で休息された。これに先立ちこの一行中の吉田家役人鈴鹿因幡守殿を当社へ案内し社参の後、境内の閑屋の座敷で神主と面談する。
その後官幣使飛鳥井中将様が御本陣にお入りになられたとの注進があり、神主は従者を連れ御玄關にて御菓子料金子式百匹を献上した。
この一件については生田神主後神土佐、住吉神主横田右近、貴船神主江田周防、初嶋神主上村大隅守と種々聞き合せをした。
右御勅使十一月八日、ご帰路の節に西宮社へ社参される。神主以下お出迎え。白木台に祝詞と御被大麻を置き、宝物である剣珠も東の方に出す。大麻を頂戴され、剣珠へも御神拝され退下遊ばされた。御見送りの際には神主へ御目礼遊ばされる。

大坂北濱で万人講、太々講、福引講結成

社家東向左膳は正月二十三日より二月五日まで大坂北濱で講結成のため逗留していた。その結果、米屋佐兵衛発願にて二百文宛かけ切りの万人講が、また那古屋茂右衛門発願にて太々講が、そして綿屋卯右衛門により福引講が結成された。これは北濱商人仲間が二十人程集まり相談の上決定したもので本社開帳寄進のためである。

御領主様 海清寺で当社宝物を御覧

五月一日 御陣屋より御領主松平遠江守様が当社に程近い海清寺へ御出でになられ、そちらで当社の宝物を御覧になられるとの由を仰せ越せられた。
寺院へ宝物を持参した例は無く、難儀至極の事であったが、御領主様のご故、神主も麻上下にて剣珠、竜明珠、八代集、香炉等を御拜見に入れた。

祝部廣瀬右内跡目相続

五月二十五日に廣瀬丈右衛門の倅右内が跡目相続し出勤した。祝儀の振舞として朝飯に二汁七采の料理を出し終日遊宴を催す。夕飯には赤飯、これは往昔は系り祝と申して初めて出勤の日に致すものである。